

特集

現地ルポ

北海道の鉄路で活躍した タイの観光列車

「キハ183」 で「復活」

近年、日本から多くの鉄道車両がアジアへ渡り、現地で高い評価を得ているが、そのなかでも特に注目を集めているのが、1986(昭和61)年にデビューしたキハ183だ。北海道専用の特急型気動車で、今年3月、多くのファンに惜しまれつつ定期運行を終了した。

そのキハ183が、新天地のタイで観光ツアー列車に使用されており、毎回、プラチナチケットになるほどの大人気を博している。6月下旬、バンコク発のツアーに参加し、懐かしい北の名車との再会を楽しんだ。
(フリーライター・内海達志)

海外からも熱視線

昭和、平成、令和の3時代を駆け抜けたキハ183は、北海道の鉄道史に燦然と名を残す名車である。札幌と道内主要都市(網走、釧路、帯広、稚内、函館)を結ぶほぼすべての特急列車に投入され、地元客のみならず北海道を訪れる観光客からも愛されてきた。

まなグッツが販売されるなど一大ブームが巻き起こった。JR北海道が企画した定員60人の撮影会は、183に因み1万8300円と破格の料金だったにもかかわらず、発売開始2分で完売に。残念ながら落選となったファンからは、「もつと高額でもいいので参加したかった」との声も聞かれた。その人気は国内にと

どまらない。2021(令和3)年の秋に17両がタイ国鉄へ寄贈(運搬費用の約1億4千万円はタイ国鉄が負担)されたほか、今年7月には18両がアメリカのシエラレオネの鉄道会社に売却されることが明らかになった。老朽化したとはいえ、車両の性能は折り紙付



▲キハ183の記念切符。左には「北斗星」の姿も

きなので、日本と比べ鉄道インフラが遅れている国では「再整備すればまだまだ活躍できる」と評価されているのだ。

撮影会同様、こちらもかなり強気な料金設定だったため、当初は「中古車両のツアーに人が集まるのか」との懸念もあったそうだが、フタを開けてみれば大盛況で、3月以降は毎週末(土日)にツアーが定期的に催行されている。成功の背景には、富裕層の増加と、日本に対するシンパシーがあるといえるだろう。

老若男女に愛されて

このうち、タイへ渡った一部の車両は改修作業が終わり、昨年末に観光ツアー列車として「復活」を果たした。ツアー名は「KIH A」。体験乗車と観光、食事、ショッピングなどを組み合わせた内容で、日本のイベント列車とは違い、鉄道ファンだけをターゲットにしているわけではない。行先は決まっていないが、だいたい2時間前後で着く、バンコク近郊のあまりメジャーではない観光地が選ばれているようだ。

筆者が乗車したのは6月25日。10日前にバンコク駅の窓口でチケットを確保することができた。ただ、発券ス

タッフは「ラッキーでしたね」と言っていたから、通常はもつと早い段階で売り切れてしまうに違いない。

詳しくは後述するが、



▲石北線で活躍した特急「オホーツク」

行先はチョンブリーで、料金は1499バーツ(1バーツは約4・2円)。筆者はタイ国鉄のほぼ全線に乗車した経験があるのだが、チョンブリーという地名は知らな



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

TEL 011-644-0101

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)